



International Institute of Multi-cultural
Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

Newsletter

Vol. 8 No. 1 2007年 5月

鷺の宮卓話

所長 太田敬雄

世界を眺めると今の時代は問題が溢れているように思われます。それに輪を掛けるのがマスコミの問題の取り上げ方でしょう。この問題はこれまでも取り上げて来ましたし、色々なところで指摘されていることでもあるので、今回は少し違った視点から今の世の中が抱えている「問題」を見てみたいと思います。

限りある生を受けた私たちは、どうしても身の回りの問題を目先のものとして捉えて、宇宙的な規模で時間や空間のつながりで諸問題を捉えることを苦手としています。その結果、今の世の中が抱える地球規模の環境に関する問題、その地球に棲む生き物の抱える問題、さらには人間社会の抱える問題などそれぞれ別個の問題として捉えて、その一つ一つへの対応に苦慮しているようです。

しばらく前に「宇宙船地球号」という表現がはやり、その表現によって私たちは地球規模の運命共同体に生かされていることに気付かされました。しかしこの認識には一つの問題があります。地球は単なる「宇宙船」ではなく、その内部に熱い血のようなマグマをたぎらせている「生き物」なのです。「生き物」としての地球は私たち同様に限りある命を持った存在で、そこで起こるあらゆる問題は一つにつながっているのです。地球のマグマが冷え切った時、地球の生命は終わるのです。私たちはその地球の持つ命のスパンで物事を把握する努力をしなくてはなりません。

今日の地球の抱える温暖化や砂漠化などの環境問題、絶滅種の増加の問題などは、地球上にアンバランスに増殖した人間が原因です。従って人間の数が大幅に減れば、それだけで多くの問題は解決するでしょう。そう考えれば少子高齢化は諸問題の実に良い解決方法なのです。それ以外の解決方法はすべて命の軽視につながります。だから私は少子高齢化を大いに奨励します。健全な地球のためには、少子高齢化を問題視するのではなく、少子高齢化時代の生き方、社会の在り方を考えるべきだと考えます。

もう一つ認識しておくことがあります。それは、地球はこれまでも多くの変動を経て、何度も地球上のあらゆる生命が減じるかのような危機を超えてはまた新しい多くの命を養ってきたことです。例え我々人類が減じるようなことがあっても、地球の命はまだ続き、その地球は恐らく新しい「人類」を育て上げていくでしょう。

その地球上にかけがえの無い命を与えられている私たちは、地球上のあらゆる命との関連で、また地球の命との関連で私たちの生き方を考えたいものです。

2007年度NPO法人国際比較文化研究所総会のご案内

今年も総会の季節がやってきました。この一年の活動を振り返り、これからの一年の在り方を考える大事な時です。今年は少し遅くなりますが、下記の要領で総会を開催しますので、皆様ご多忙の中恐縮ですがご出席くださいますようお願いいたします。なお同封の葉書で出欠の予定をお知らせ下さい。またご欠席の場合は必ず委任状に署名押印して下さい。

記

- 1、 日時：2007年6月3日（日）午後3時～4時
- 2、 場所：群馬県庁 昭和庁舎 1階会議室
- 3、 議題：
 - (1) 2006年度事業報告
 - (2) 2006年度収支決算報告
 - (3) 2007年度事業計画
 - (4) 2007年度予算計画
 - (5) 役員ならびに事務局人事
- 4、報告：
- 5、理事会：総会に先立って6月3日午後1時半から理事会を開催します。会場は総会会場と同じです。理事・監事の方々のご出席をお願いします。

五月の哲学堂 黄昏のコンサート

昨年の総会の折のイベントとして冷泉公裕氏のコンサートを開催しましたが、今年は総会とは切り離して下記の要領で冷泉公裕氏の唄と語りによるコンサートを下記のように開催します。国際比較文化研究所も協力団体として関わっています。お一人でも多くの方の参加をお待ち申し上げております。

記

- 1、出演：冷泉公裕 (レゼイキヒロ) 唄・語り 丸尾めぐみ 唄・ピアノ
- 2、日時：2007年5月19日（土）開演 18:00
- 3、会場：高崎哲学堂（高崎市八島町 82）
- 4、入場料：2,500円。定員 50名。
- 5、協力：NPO法人国際比較文化研究所
- 6、主催：(有)カラ 東京都港区南青山 5-16-3 メゾン青南 201
- 7、問い合わせ・チケット予約：(株)トライレコード Tel&Fax 027-385-3200

メールアドレス info@try-records.com

なお研究所会員については、太田宛にご連絡いただければチケットを確保しておきます。

- 8、主な曲目：テネシーワルツ、時ふれば、黄昏のビギン、夏の終わりに、バラはあこがれ、ブルーランプ（唄・語り）、悲しきこの煙草、いとしのクレメンタイン、等々
- 9、プロフィール：

冷泉公裕 俳優。1947年生まれ。劇団文学座出身。舞台、テレビ等に味のあるバイプレーヤーとして親しまれている。20代半ばより俳優業と平行してライブ活動を開始。「団塊のアイドル」目指し、カントリー、シャンソン、ブルース、歌謡曲

等、ジャンルを問わず自分の琴線にふれる歌を唄い続けている。05年、ファーストCD [Bom Dia 諸国漫遊] をリリース。現在安中市鷺宮に家を見て新しい故郷として群馬の風を楽しんでいる。

丸尾めぐみ (ピアノ) 幼い頃よりクラシックに親しみ、ポピュラー音楽に魅了されてジャンルに囚われず活動。加藤登紀子、福山雅治らと広く関わる。世代を超えて共に楽しめるコンサートを目指し、新しい歌を意欲的に作曲し続けている。04年、CD「Vibra Star～恒星奏振器」発表。18年間冷泉コンサートを支えている。

なお、6月17日(日)には冷泉公裕氏がNHK大河ドラマ「風林火山」に安中市上後閑、長源寺の住職役で出演されます。

多文化交流 in マラン (インドネシア) 2007

前号でもご案内させていただきましたが、9月初旬に「インドネシアの軽井沢」とも言われているマランで多文化交流を実施します。昨年は参加者が不足、実施できませんでしたが、今年こそ実現したいと頑張っております。別紙、ご案内を同封しますので是非とも御検討下さい。

なお、このプログラムの一部としてマランの大学で日本語を専攻する学生に日本に来てもらう計画をしています。何名かの学生に2週間ほどの日本体験をしてもらうため、旅費と滞在中の生活費を準備して、夏に来日「多文化交流 in マラン」でマランに参りました折に希望者を面接してくる予定です。冬には「多文化交流 in マラン」の後半部分として日本での交流が出来るように願っています。

貨幣の交換レートが非常に高いため、インドネシアの学生にとっては私費での来日は殆ど不可能な状況であるにもかかわらず、大勢の学生が真剣に日本語を学んでいます。そのような学生達数名に日本に来て日本文化に触れる機会を提供したい。そして日本を好きになってもらいたい。それがこの企画の意図するところです。

何名の学生に来てもらえるかは皆様のご協力しだいです。すでに思いの他大勢の方々からご寄付を頂戴しており、すでに現時点で少なくとも一人の学生を招聘できるめどが立ちそうなところまで来ています。招聘のためのご寄付はまだ受け付けておりますので、お一人でも多くの方にこの企画の意図をご理解いただけてお力添えいただければ幸いです。

安中市社会教育関係団体に認定される！

国際比較文化研究所に安中支部を置く事により、この度安中市教育委員会より「安中市社会教育関係団体」として認定を受ける事ができました。認定機関は二年間ですが、この間、安中市の教育関連諸施設の利用に便宜をはかっていただけることになりました。

今後、前橋の昭和庁舎同様に安中市の公民館や学習の森など大いに生かして活動して参ります。

今年度初めまで、実は榛名山麓みどりの大学計画の中でリースし、研究所としても大いに活用して参りましたコピー機のリースが終わりました。これまで、このリース料支払が大きな負担でしたが、その心配もやっと無くなりました。

今年度は新しい気持ちでこれからの活動に取り組んで参りたいと考えております。そのタイミングに合わせて安中市社会教育関係団体の認定を受けられたことも大きな節目となるようにしたいと思います。これからの活動にご期待いただくと共に、どのような活動が可能か皆様からのご提案もお待ちしております。

会費・寄付（2007. 3. 28～5. 5）

2007年3月28日以降の会費納入状況、「多文化交流 in マラン（インドネシア）2007」でのインドネシアの学生招聘のためのご寄付、その他一般のご寄付の状況は下記の通りです。ご協力有難うございます。いつも振込通知書や現金を頂戴するたびに皆様のご協力に身の引き締まる思いですが、直接お目にかかった折に御礼を申し上げ損ねる事が多く、大変申し訳なく思っております。研究所が2000年に設立されて以来、紆余曲折もありましたが、こうして活動を続けることが出来ますのも皆様のご理解とご協力のお陰と感謝しております。なお、記載に間違いや漏れが無いよう注意しておりますが、もしも間違いなどございましたら、まことにお手数ですがご連絡ください。

会員で会費未納の方には未納年度を記した振込用紙を同封させていただきます。また、会員以外の方にも振込用紙を同封させていただきますが、決して入会・ご寄付を強要するものではありませんことを申し添えます。（以下、敬称略）

<新入会員> 関根君子、花盛勲一、大崎健史、高田彰、黒田絢、小山實。

<会費> 徳増弘子 (06,07)、太田玲子 (07)、田中福姫 (07)、新井美弥子 (07)、朴恵蘭 (07)、柏木恵 (07)、井殿園 (07)、佐藤春香 (07)、町屋昌明 (07)、藤井恵 (07)、佐俣英司 (07)、斎藤正典 (07)、斎藤和子 (07)、杉浦隆一 (07)、中澤宏則 (07)、近藤佳代 (07)、阿部昭子 (07)、中易圭子 (07)、吉田省史郎 (07)、小林慎樹 (07)、田村恵美子 (05,06,07)、S. ジュティーン (07)、岡田一恵 (07)、真下東雄 (07)、佐藤貴雄 (07)、前澤優子 (07)、白井義夫 (07)、丸山武子 (07)、金子憲太郎 (07)、青木洋子 (07)、盛田稔 (07)、今井幸 (07)、中司和雄 (07)、大塚正子 (07)、山縣英明 (07)、大江士 (07)、朴敬二 (07)、三上布美子 (07)、小野関千枝子 (07)、村井田和夫 (07)、須藤勲子 (07)、永田強一 (07)、萩原俊彦 (06)、佐藤幸正 (07)、原口一美 (06,07)、山下明昭 (07)、森涼子 (07)、村中祐生 (07)、野口紀子 (07)、太田一朗 (07)、福田則行 (07)、木暮道子 (07)、堀越敏男 (07)、長谷川路子 (07)、土屋操 (07)、小倉寿 (07)、関口澄 (07)、渡辺洪 (07)、木暮稔 (07)、佐野啓予 (07)、太田敬雄。早速の会費納入、有難うございました。

<多文化交流指定寄付> 猪狩美智子、古沢笑、鳴海真澄、近藤佳代、河野千絵、大江士、花盛勲一、阿部昭子、吉田省史郎、小林慎樹、S. ジュティーン、盛田稔、高田彰、黒田絢、三上布美子、高山昇、須藤勲子、永田強一、村中祐生、野口紀子、福田則行、木暮道子、堀越敏男、長谷川路子。

5月5日時点でインドネシアの学生招聘のために111,500円のご寄付を戴いています。あと数万円で学生一人を招く事が出来ます。

<寄付一般> 小倉寿、鳴海真澄、盛田稔、黒田絢、山下明昭、野口紀子、木暮道子、中村明佳。小計33,000円のご寄付を頂戴しました。

編集後記：☆相変わらずのバタバタの中での会報発行。ミスも多いかと思いますがご覧下さいますようお願いいたします。☆ホームページも少しづつ更新してまいりますので、時折覗いてみて

下さい。(太田記)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所